

者の鑑別する所であるから、一般の注意にどうも學校で重みに注意せねばならぬは傳染病呼吸器の病氣、近視眼とか脊髓の曲つて居る事とか云ふか重でござりますからさう云ふ事を先に御話したが宜いと思ふ、皆さんさう云ふ事に就て他に御望みがあれば問題が出来て御話を致します、餘り長く御話を致しました、(つゞく)

涎掛

岡本 ちか

幼児生れ出で、より二三歳位までは絶えず涎を出す故に下顎喉頭のあたりいつも濕ひ居り甚だしきところはたられることさへありて着物なども常にぬれ不潔となること多し。されば衛生上、經濟上何れよりも幼児には涎掛をなさしむること肝要な

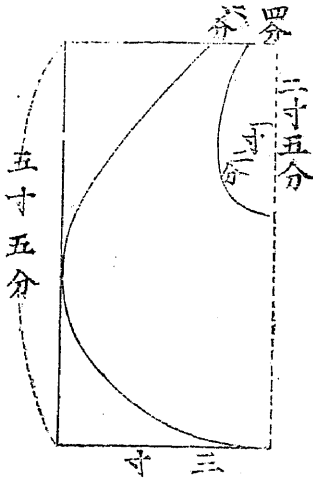
り従来用ひ來りしものは、其地質の撰び方縫方共に粧飾をキとし、体裁はよろしけれど、洗濯に適せざるもの多かり。今左に最も簡短なる涎掛の裁方、縫方につき二三を記すべし。又其地質はキヤラコ或はフランネル等の如き度々洗濯なし得るものを可とす。

一、縫方

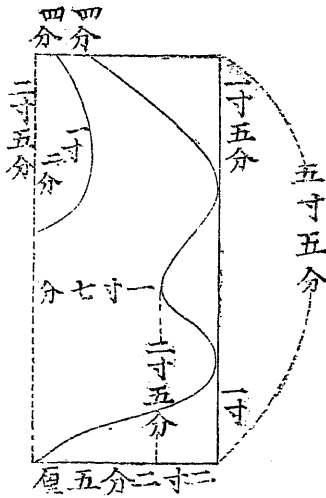
先づ廻りに着く所のギヤダを作り置く、即ち其切裁目なれば一寸裁切、耳ならば八分裁切位の幅にて、長さは其廻りの一倍半以上二倍位までの長さに裁ち置き、之を廻り丈に縫ひつめて「ギヤダ」となす。次に表を「キヤラコ」などになす時は、晒木綿或は綿フランネルなどを心となし、先づ表にとちつけ置き、次にギヤダを表と裏との間にはさみ、中より小さく縫ひ、表に

た ち 方

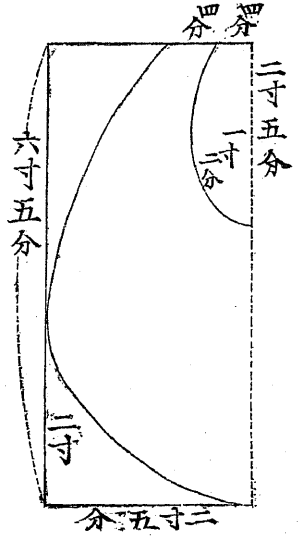
第三圖



第二圖



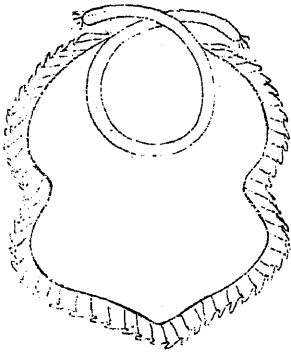
第一圖



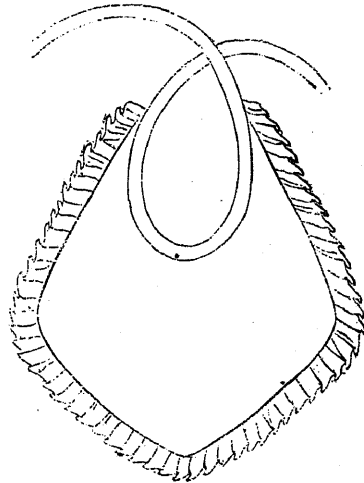
第一

第一圖

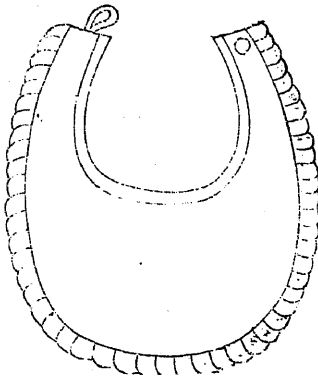
出來上りの圖



第二圖



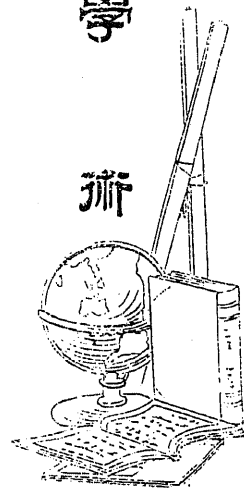
第三圖



引返し、其所にミシンを掛くるなり。(ミシンを  
 使用し能はざるときは返し針にてもよろし) 次  
 に紐付をなす、紐は長さ凡を一尺八寸位どなし  
 「テップ」或は共切を用ふるなり。又第二圖の如  
 く紐の中に綿を少し入れ置き細く拵け置くもよ  
 し。又第三圖の如く廻りは「ギャダ」となさず、  
 普通の「ヒダ」となし、紐付の所も、紐どなさず、  
 釦掛になすもよし。又ミシンを使用し得るも  
 のは其中に種々の模様を縫ひ、或は其形を梅花  
 櫻花などの如く裁ち、中央に莖の如く縫模様  
 をなし廻りには「ギャダ」或はヒダを付けず、ケ  
 ペレにてふちを取り置くも亦をもしろし。

學

術



らんぶの話

京都 圖 南 子

炎帝酷吏も何れにか姿を匿し、南窓孤燈の下心  
 静かに書を繙くに快き時節に近きました。さ  
 てこの際吾人が恩澤に浴するものは燈火でありま  
 せう。皆様の宅にては或は電氣燈或は瓦斯燈等を  
 使用せらるゝ方もありませうけれども、先づ普通  
 に使用せられるのはらんぶですから、これにつき  
 て御話しをしませう。